(2)投球準備動作	投球練習数（初回５球／１分以内、以降３球／３０秒以内） ボールの保持・足の位置・完全停止・セットポジション(２～１０秒)
(3)投球動作	モーション・足の踏み出し・２０秒ルール
(4)投球の判定	第１バウンドの位置、ストライク、ボール、不正投球、見る位置
(5)キックの判定	不正キック、フェア、ファウル、飛球、ライナー、ゴロ
(6)本塁のプレイ	フォースプレイ、タッチプレイ、キック妨害、走塁妨害、守備妨害、得点の確認、周囲の安全
(7)シグナルとコール	プレイボール、タイム、ストライク、ボール、アウト、セーフ、フェアキック、故意落球、不正投球、不正キック、オブストラクション、インターフェアランス、ディレードデッドボール
(8)塁審との連携	スリーフットレーン、フェアキック、ファウルキック、タッチアップ、ランナーの離塁、キッカーの空振り、キックボールの触体と捕球

(2)　試合の進行

a）姿勢と構え

①　構える位置は、キッカーズボックス左側のキャッチャーよりがよい。また、インジケーターは必ず使用すること。

②　投球されたボールが、本塁ベース上を完全に通過するまで目で追って確認する。

b）投球の判定

①　ゼスチャアやコールは大きく明快に表現する。

②　投球に対するストライクおよびボールの宣言は早すぎないように。

③　ボールカウントは随時示す。

c）キックの判定

①　キックに対する判定は、球審が行う。

②　よく確かめてからおこない、ハッキリしないときは、塁審と連携をとって正確に行う。

(3)　球審の動き

目だけで追わず、ボールやプレイがよく確認できる位置にすばやく移動し正しい判断をする。

a）キックに対して

①　キックがフライの時は原則として投・本塁間または一・三塁の中間くらいまで出て捕球を確認する。

②　キックがゴロのときは、フェアまたはファウルの確認ができる位置に移動する。

b）ランナーに対して

①　本塁上のタッチプレイは見にくい場合が多いので注意を要する。

②　右翼方向への飛球に対しては一塁ベースでのランナーの触塁または離塁および後位ランナーの追い越しも見る。

③　本塁・一塁間のスリーフットレーンでの守備妨害が発生したときは原則として球審がアウトを宣告する。

5.　塁審の任務

(1)　塁審の基本的事項

a）ランナーがいないとき

(1)始めに立つ位置と姿勢	攻守交代時およびインプレイ中で異なる。

(2)判定	キックボールの処理がよくわかる位置へすばやく移動する。
(3)シグナルとコール	アウト、セーフ、タイム

b) ランナーがいるとき

(1)位置と姿勢	できるだけ近くで見る。動きやすい姿勢で待つ。
(2)判定	キックボールの処理がよくわかる位置へすばやく移動する。
(3)フォースプレイ	見る角度に注意・送球と９０°の角度で見る。
(4)タッチプレイ	できるだけ近くで見る。
(5)タッチアップ	キックボールとランナーの足を同時に見るようにする。
(6)タイム	宣告する時期に注意。プレイの進行中は宣告しないこと。一段落してからタイムを宣告し処理をする。
(7)境界線付近のボール	ボールの位置とランナーの位置に注意する。
(8)外野を抜けるキックボール	キックボールの落下位置を確認する。野手の捕球または触球の確認。 ランナーの離塁・触塁に注意する。

(2) 塁審の一般的事項

(1)離塁違反	離塁アウトを処理するとき。
(2)守備妨害	a)キックボール処理 守備が優先する。 b)送球処理 故意でなければ成り行き。
(3)走塁妨害	ディレードデッドボールの処理をする。
(4)挟殺プレイ	タッチの状況を確認する。
(5)ラインアウト	１ｍを越えたとき。タッチの行為が必要。

(6)追い越しアウト	インプレイ中のみ。逆走塁も適用。
(7)アピールプレイ	守備側の監督またはプレイヤーの申告があってから判定する。
(8)後ずさりアウト	本塁・一塁間のキッカーランナーのみ適用。

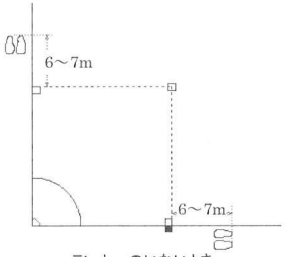
6. 塁審の位置

(1) 一塁および三塁塁審

a) ランナーのいないとき。

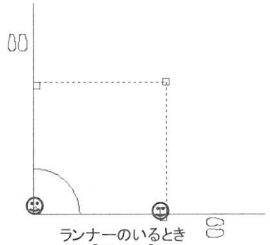
塁から６～７ｍ離れたファウルラインの外側に位置し、投球と同時に腰を少し落とし、両手は軽く握り両腰前に添えて、つぎのプレイに備える。

【第 30 図】



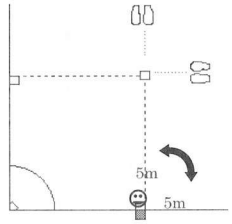
ランナーのいないとき
【図３０】

b) ランナーのいるときタッチプレイに備え、５ｍ程度まで近づく。ランナーの離塁、触塁も確認する。キッカーのキックとランナーの離塁が同時に見えるところに位置する。【第 31 図】


ランナーのいるとき
【図３１】

(2) 二塁塁審

a) ランナーのいないときおよびランナーが三塁のみのとき。野手が守備の妨げにならないように注意し、塁から６～７ｍ離れたところに位置する。



一塁ランナーのいるとき
【図３２】